

茨城県北西地域の哺乳類

茨城動物研究会

はじめに

茨城県において、現在生息が確認されている哺乳類は7目12科32種である(山崎ほか, 2001)。県北西地域における哺乳類の生息状況を明らかにするための基礎資料を収集するため、哺乳類の分布調査を行った。現地調査では、上條隆志、松家大樹、奥村みほ子、諸沢崇裕、岩田 樹、松田奈帆子、ソリゴガ、滝若 菜、山田亜希美の各氏にご協力いただいた。また、斉藤理氏には現地調査にご協力いただくとともに、分布情報を提供していただいた。稲葉 修氏には洞穴の情報や生息情報をご教示いただいた。竹内正彦氏には文献をご教示いただいた。鈴木徹氏には、大子町内の洞穴資料をご教示いただいた。また茨城県自然博物館の久松正樹氏と山崎晃司氏には調査を進めるにあたり便宜をはかっていただいた。ここに御礼申し上げる。

調査地および方法

県北西地域の哺乳類の分布情報を得るため、文献調査と現地調査を実施した。

(1) 文献調査

県北西地域全域の哺乳類に関する文献の収集に努めた。

(2) 現地調査

県北西地域の久慈川上流を中心として(大子町、常陸大宮市、常陸太田市)、2003年5月～2005年9月

にかけて行われた。調査内容は、主に小型の哺乳類を対象とし、1. シャーマンライブトラップによるネズミ類などの捕獲調査、2. ハープトラップおよびかすみ網によるコウモリ類の捕獲調査、3. 自動撮影調査、4. ムササビ *Petaurista leucogenys* の分布調査、5. コウモリのねぐら探し調査を行った。また、随時、痕跡や死体、目視等により哺乳類の生息確認に努めた。

シャーマンライブトラップによる捕獲調査は、計5地点で行った(図1, 表1)。1地点につき20個から25個のトラップを夕方設置し、翌朝回収した。エサはさつまあげとさつまいもを用いた。ハープトラップおよびかすみ網による捕獲調査は、計2地点の沢で(図1, 表1)、夕方から夜中まで実施した。同時にバットディテクター(以下B.D.とする)を用いて、コウモリの声が受信できるか(飛翔している個体がいるかどうか)調べた。自動撮影調査は、センサーカメラ Fieldnote II (麻里府商事)を用いて計4地点で行った(図1, 表1)。ムササビの分布調査は、主として社寺林で、糞を探索した。コウモリのねぐらは、聞き取りや文献から鉱山跡やずい道などのありかを探し、内部に入ってコウモリあるいはグアナを探した。

なお、学名と和名は阿部ほか(2005)に従った。小型哺乳類およびコウモリの捕獲については、許可証第161022～161026号(茨城県)、第171007号、第171008号、平成17年度第04-23号(環境省)、第

表1. 茨城県北西地域における哺乳類の調査日および調査地点。

調査地点番号	調査日	調査地	環境省3次メッシュ番号	環境
1. ネズミ類の捕獲調査				
1-A	2005/3/12-13	大子町滑石大子広域公園	5540-1247	コナラ林, アズマネザサあり。
1-B	2005/3/12-13	大子町平山	5540-1259	河原のススキ, アズマネザサ。
1-C	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	5440-7341	コナラ, クリのよく管理された二次林, アズマネザサほとんどなし。
1-D	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	5440-7340 -7341	コナラ, クリの二次林, アズマネザサややあり, 谷津田に隣接。
1-E	2005/9/23-24	大子町	5540-2221	スギ植林, 林床低木
2. コウモリ類の捕獲調査				
2-A	2005/9/3-4	大子町	5540-2290	沢沿い落葉広葉樹林, 周囲スギ植林。
2-B	2005/9/3-4	大子町	5540-3200	スギ植林。
2-C	2005/9/23	大子町	5540-2221	スギ植林。
3. 自動撮影による捕獲調査				
3-A	2005/3/12-13	大子町	5540-1247	1-Aと同じ。
3-B	2005/3/12-13	大子町	5540-1259	1-Bと同じ。
3-C	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	5440-7340	1-Cと同じ。
3-D	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	5440-7340	1-Dと同じ。

04-24号に基づき行った。

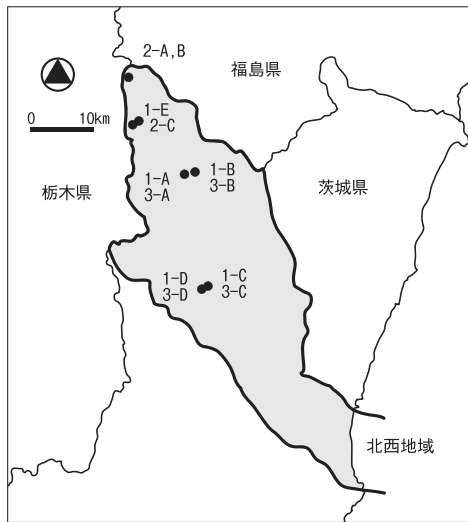


図1. 調査地域と調査方法別調査地点。(地点番号は表1に対応している.)

結果

文献調査と現地調査から得られた記録をあわせると、本地域で分布記録が得られた哺乳類は7目13科20種となった(表2)。

1 文献調査

文献調査から、県北西地域では7目13科18種が確認された(表2)。

2 現地調査

現地調査から、4目8科11種が確認された(表2)。表3には、種ごとに分布記録をまとめた。

以下に調査方法別に述べる。

(1) シャーマンライブトラップによる捕獲調査

アカネズミ *Apodemus speciosus* が、3地点で計10頭



図2. アカネズミ(調査地点1-A)。

表2. 茨城県北西地域で分布情報が得られた哺乳類のリスト。

目	科	和名	学名	文献	本調査 現地調査 聞き取り
食虫目	モグラ科	ヒミズ	<i>Urotrichs talpides</i>	栃木県立博物館(2002)	
翼手目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequum</i>	小柳ほか(2003)	目視
		コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	小柳ほか(2003)	
	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>		標本*
		イエコウモリ (アブラコウモリ)	<i>Pipistrellus abramus</i>	江端(1992); 桐原(1987); 茨城県環境局(1985); 茨城県生活環境部(1996)	
		コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i>	二上・稲葉(2003)	捕獲
		ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	日本野鳥の会茨城支部(2002)	
霊長目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	日本野鳥の会茨城支部(2002)	
食肉目	イヌ科	キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	○
		タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	死体 ○
	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	小金澤・竹内(1993)	
	イタチ科	テン	<i>Martes melampus</i>	茨城県環境局(1985); 茨城県生活環境部(1996); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	自動撮影 ○
		イタチ	<i>Martes itatsi</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	自動撮影、死体
	アナグマ		<i>Meleia meles</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	
		ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	茨城県環境局(1985); 茨城県生活環境部(1996); 小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)
偶蹄目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	○
齧歯目	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	目視
		ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	茨城県環境局(1985); 茨城県生活環境部(1996); 小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	糞 ○
	ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		捕獲
	ヤマネ科	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>	茨城県環境局(1985); 茨城県生活環境部(1996)	
兎目	ウサギ科	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	小金澤・竹内(1993); 日本野鳥の会茨城支部(2002)	糞

* 調査期間中に茨城県自然博物館へ届けられた死体。

捕獲された(図2)。

(2) ハープトラップおよびかすみ網によるコウモリ類の捕獲調査

2005年9月3日の捕獲調査において、20時20分にコテングコウモリ *Murina ussuriensis* 1頭がハープトラップで捕獲された(図3, 4)。体重5.2g, 前腕長29.5mmの♂であった。なお、同定については阿部ほか(2005)に従った。調査中にB.D.により50kHzのCF音が2回確認された。この他50kHzのFM音が何度か確認された。2005年9月23日の調査では、1頭も捕獲されず、B. D.にも感知されなかった。

(3) 自動撮影調査

4カ所中2カ所で、それぞれテン *Martes melampus* とイタチ *Mustela itatsi* が撮影された(図5, 6, 7)。イタチが撮影された3-Bのカメラ設置地点には、けもの道があり、イタチの足跡が多数あった。

(4) ムササビの分布調査

計12地点で糞が確認された。

(5) コウモリのねぐら探し調査

2カ所の洞穴で、キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* が1頭ずつ確認された(図8)。このほか、2カ所の農業用隧道で昔はコウモリがいたという、聞き取りによる情報が得られた。しかし、行ってみたところ1カ所は穴がふさがれており、もう1カ所は素堀の穴の下側にコンクリートの狭い穴がつけられていた。



図3. ハープトラップ設置状況(調査地点2-A)。

表3. 茨城県北西地域における哺乳類現地調査結果。

種	調査日	調査地	確認方法	個体数	標高(m)	メッシュ番号	確認者	備考
キクガシラコウモリ	2005/5/21	常陸太田市松栄町	目視	1	30	5440-6327	上條ほか	
キクガシラコウモリ	2005/9/4	大子町クサレ沢	目視	1	330	5540-2262	斉藤 理	
コテングコウモリ	2005/9/3-4	大子町	捕獲	1	550	5540-2290	安井ほか	2-A
ノウサギ	2005/3/12	大子町滑石	糞		180	5540-1247	安井ほか	1-A
ノウサギ	2005/5/21	常陸大宮市照沢 釜額	目視	1	80	5440-7314	諸沢崇裕	
ニホンリス	2005/9/4	大子町蛇穴新田	目視	1	450	5540-2281	安井・岩田	9:44と10:35の2回
ムササビ	2003/5/18	大子町	糞		130	5540-1227	安井ほか	
ムササビ	2003/5/18	大子町張山	糞		150	5540-0276	安井ほか	
ムササビ	2005/1/8	大子町蛇穴	糞		350	5540-2262	上條ほか	
ムササビ	2005/1/8	大子町上野宮	糞		340	5540-2253	上條ほか	
ムササビ	2005/1/8	大子町磯神	糞		360	5540-2253	上條ほか	
ムササビ	2005/1/8	大子町下津原	糞		100	5540-0390	上條ほか	
ムササビ	2005/3/12	大子町滑石	糞		180	5540-1247	安井ほか	1-A
ムササビ	2005/5/22	常陸大宮市長沢	糞		120	5440-7257	上條ほか	
ムササビ	2005/5/22	常陸大宮市長沢竹内	糞		160	5440-7248	上條ほか	
ムササビ	2005/8/21	大子町日照	糞		320	5540-1352	安井・上條	
ムササビ	2005/8/21	常陸太田市湯草	糞		320	5540-0396	安井・上條	
ムササビ	2005/9/4	大子町	糞		820	5540-3202	斉藤 理	
アカネズミ	2005/3/12-13	大子町滑石	捕獲	5	180	5540-1247	安井ほか	1-A
アカネズミ	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	捕獲	2	110	5440-7341	上條ほか	1-C
アカネズミ	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	捕獲	1	80	5440-7340	上條ほか	1-D
アカネズミ	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	捕獲	1	90	5440-7340	上條ほか	1-D
アカネズミ	2005/5/21-22	常陸大宮市山方	捕獲	1	85	5440-7341	上條ほか	1-D
タヌキ	2005/9/6	那珂町菅谷	死体	1	32	5440-5309	斉藤 理	
テン	2005/3/12-13	茨城県大子町	自動撮影		180	5540-1247	安井ほか	3-A
イタチ	2005/3/12	大子町平山	足跡		110	5540-1259	安井ほか	
イタチ	2005/3/12-13	茨城県大子町	自動撮影		110	5540-1259	安井ほか	3-B
イタチ	2005/9/7	常陸太田市里野宮町	死体	1	20	5440-6473	斉藤 理	
ハクビシン	2005/9/5	日立市大和田町	死体	1	5	5440-6407	斉藤 理	



図4. コテングコウモリ. (調査地点 2-A).



図7. イタチ (調査地点 3-B).



図5. 自動撮影装置設置状況 (調査地点 3-B).



図8. 常陸太田市のキクガシラコウモリ.



図6. テン (調査地点 3-A).

本調査地域の哺乳類の記録

食虫目では、ヒミズ *Urotrichs talpides* の採集記録が、大子町上野宮で報告されている (栃木県立博物館, 2002)。栃木県側の鷲子山ではジネズミ *Crocidura dsinezumi* とヒミズが、採集されている (小金澤ほか, 1991)。

翼手目では、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus*、ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis*、アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*、コテングコウモリの5種が確認されている。キクガシラコウモリは、大子町の廃坑 (小柳ほか, 2003) と常陸太田市の史跡で確認されているが、いずれも1頭または2頭である。コキクガシラコウモリは、大子町の廃坑で夏期に200頭の集団が確認されている (小柳ほか, 2003)。ヒナコウモリは八溝山神社で広瀬 誠氏により拾われたものであり、本県初記録となる (山崎未発表)。アブラコウモリは、常陸太田市の高校で捕獲記録がある (桐原, 1987)。桐原 (1987) や江幡 (1992) によると本種は本地域に広く分布するという。コテングコウモリは、山方町の人里で確認されているほか (二上・稲葉, 2003)、現地調査においても大子町で捕獲確認された。本種は低山から亜高山まで、また自然林から人工林まで幅広い環境に生息することが知られているが、上記の記録のほかに茨城県内では北茨城市の森林での採集記録があるのみである (長岡, 1998; 柴

田・安井, 2006).

霊長目のニホンザルについては、本種と思われる情報が調査地域内では1件報告されている(日本野鳥の会茨城県支部, 2002). 山崎ほか(2001)は、県内で単独個体が時々出現するが、その由来の詳細は不明と述べている.

食肉目では、現地調査によりタヌキ *Nyctereutes procyonoides*, テン, イタチ, ハクビシン *Paguma larvata* が、聞き取りによりキツネ *Vulpes vulpes* が確認された. 八溝山地域の哺乳類について報告した小金澤・竹内(1993)によると、タヌキ, キツネ, イタチ, ハクビシンは生息情報が広域から得られ、多数生息するとされている. 一方、テン, アナグマ *Meles meles* は生息情報が局所的あるいは比較的少なく、生息数が少ないとしている. ツキノワグマについては、再出現の可能性を指摘しているものの、本県には現在生息しないとされている(山崎ほか, 2001).

偶蹄目では、イノシシ *Sus scrofa* が聞き取りにより確認された. 小金澤・竹内(1993)によると、八溝山地域ではイノシシは生息情報が広域から得られ、多数生息するとされている.

齧歯目では、現地調査によりニホンリス *Sciurus lis*, ムササビ, アカネズミが確認された. 栃木県側の鷲子山ではハタネズミ *Microtus montebelli* とアカネズミが、同じく八溝山ではハタネズミ, アカネズミ, ヒメネズミ *Apodemus argenteus* が採集されている(小金澤ほか, 1991). ニホンリスは、太子町蛇穴新田において、車で走行中に行きと帰り同じ場所で1頭ずつ目撃された. また美和村の鷲子山で記録がある(小金澤ほか, 1991). 小金澤・竹内(1993)によると、八溝山地域ではニホンリスの生息情報は局所的あるいは比較的少なく、生息数が少ないとされている. ムササビは、久慈川上流部では調査した多くの社寺林で糞が確認された. 小金澤・竹内(1993)でも八溝山地域では生息情報が広域から得られ、多数生息するとされている. 森林が少なくなる、また分断される下流部でどの地域までみられるか、調査をする必要がある.

兎目のニホンノウサギ *Lepus brachyurus* は、現地調査により確認された. 小金澤・竹内(1993)によると、八溝山地域では生息情報が広域から得られ、多数生息するとされている.

まとめ

今回の調査では、生息すると考えられる種でも(例えばアズマモグラ, ヒメネズミなど)、調査回数や手

法が不十分のため記録されていない. 本地域は、海岸部から八溝山までと標高や植生、地形が変化に富んでいるため、茨城県の哺乳類リストにあげられているほとんどの種が生息している可能性があった.

コウモリ類については、捕獲調査の際の観察結果印象から、個体数が非常に少ないと思われた. また、茨城県では確認されている翼手目の種数も少なく、特に樹洞や樹皮等にねぐらをもつ種(以下樹洞棲コウモリとする)が少ないのが特徴である. この理由としては、樹洞棲コウモリは自然林の多い地域に生息する種が多いことが考えられる. コテングコウモリは、樹木の葉や樹洞等をねぐらとする種であり、自然林面積の少ない本県では貴重な存在といえる. 参考までに、本県および隣県の栃木県におけるコテングコウモリの採集・捕獲地点と自然林の分布を図9に示す.

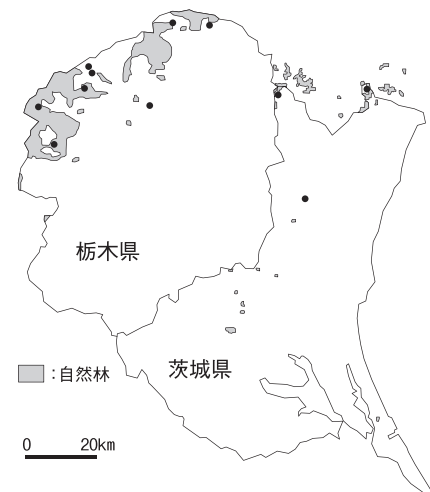


図9. 茨城県と栃木県におけるコテングコウモリの採集・捕獲地点と自然林の分布.

(図中の採集・捕獲地点は、茨城県については長岡(1998), 二上・稲葉(2006), 柴田・安井(2006)から、栃木県については栃木県自然環境調査研究会哺乳類部会(2002), 小柳ほか(2005)から引用した. 自然林の分布は栃木県, 茨城県, 福島県の5万分の1現存植生図(環境庁1981a, 1981b, 1981c, 1986a, 1986b, 1986c, 1994)を参考に作成した)

引用文献

- 二上文彦・稲葉 修. 2003. 那珂郡山方町でコテングコウモリを確認. 茨城生物の会, (23):55-56.
- 江幡 栄. 1992. 茨城のアブラコウモリ. 茨城の生物平成4年版(第3集). pp. 246-247. 茨城県高等学校教育研究会生物部.
- 茨城県環境局. 1985. 茨城の特定動植物の分布(昭和58・59年). 532 pp., 茨城県環境局.
- 茨城県生活環境部. 1996. 茨城県の特定動植物の分布

- 動物編— (平成5・6年), 417 pp., 茨城県生活環境部.
- 環境庁, 1981a. 第2回自然環境基礎調査・栃木県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1981b. 第2回自然環境基礎調査・茨城県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1981b. 第2回自然環境基礎調査・福島県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1986a. 第3回自然環境基礎調査・栃木県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1986b. 第3回自然環境基礎調査・茨城県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1986b. 第3回自然環境基礎調査・福島県現存植生図. 環境庁.
- 環境庁, 1994. 第4回自然環境基礎調査・栃木県現存植生図. 環境庁.
- 桐原幸一, 1987. 常陸太田市で捕獲されたコウモリ. 茨城生物, (11): 63-64.
- 小金澤正昭・竹内正彦, 1993. IV. 動物 1. 哺乳類—八溝山地域における哺乳類相と生息状況—. pp.109-122. 自然公園内環境調査: 八溝山地域, 東京電力株式会社・東電設計株式会社.
- 小金澤正昭・乾孝雄・橋本清吾, 1991. 八溝地域における哺乳類相. 栃木県立博物館研究報告書 八溝の自然 (5), (9): 93-106.
- 小柳恭二・辻明子・山崎晃司, 2003. 茨城県におけるコウモリ類の生息分布—1997年から2001年の記録—. 茨城県自然博物館研究報告, (6): 85-93.
- 小柳恭二・辻明子・安井さち子・小金澤正昭, 2005. 栃木県塩谷郡栗山村におけるコウモリ類の分布. 東洋蝙蝠研究所紀要, 4: 7-14.
- 長岡浩子, 1998. 北茨城市四時川溪谷で採集されたコテングコウモリの記録. 茨城生物, (18): 60-61.
- 日本野鳥の会茨城支部, 2002. 茨城県野生鳥獣生息分布調査報告書(平成12・13年度), 茨城県生活環境部, 栃木県立博物館, 2002. 栃木県立博物館自然部門収蔵資料目録 哺乳類綱. 170 pp., 栃木県立博物館, 宇都宮.
- 栃木県自然環境調査研究会哺乳類部会, 2002. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの哺乳類. 栃木県林務部自然環境課. 182 pp.
- 柴田銃江・安井さち子, 2006. 茨城県北茨城市小川群落保護林におけるコテングコウモリの樹冠部での偶発的捕獲. 東洋蝙蝠研究所紀要, 5: 27-29.
- 山崎晃司・小柳恭二・辻明子, 2001. 茨城県でこれまで確認された哺乳類について. 茨城県自然博物館研究報告, (4): 103-108.

協力者

上條隆志, 松家大樹, 奥村みほ子, 諸沢崇裕, 齊藤理, 岩田樹, 松田奈帆子, ソリゴガ, 滝若菜, 山田亜希美

執筆者

安井さち子